

旅する民俗学者

# 宮本常一

のまなむしを辿って

# 萩

2007年

2008年

12月22日(土)~4月8日(火)



Hagi Hakubutukan  
萩博物館 

◆開館時間：午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで) ◆観覧料：大人500円 高校・大学生300円 小・中学生100円  
【団体割引】20名以上20%引き【障害者割引】20%引き◆駐車場：普通車66台 バス8台

〒758-0057 山口県萩市大字堀内 355番地 TEL 0838-25-6447 FAX 0838-25-3142 URL:www.city.hagi.yamaguchi.jp/hagihaku/

(萩の空より、1960年)



## 宮本常一のまなざしを追って

民俗学者の宮本常一（1907～81）は、山口県の周防大島の出身です。「旅する民俗学者」と呼ばれ、日本全国を隈なく歩いて各地の生活文化を記録し、一方で離島振興や農林業振興に尽くしました。そしてその間、何気ない日常の生活に目を向け、10万枚に及ぶ写真を撮影しています。それらの写真群からは、現在、私たちが忘れてしまいそうになっている大切なものが見えてきます。

### 宮本常一のみた「萩」

「・・・この町の人たちは古くからの生活を崩していないのである・・・」

「・・・いわば進歩に背を向けつづけて生きてきたといってよかった。・・・そこには筋を通して生きようとする気迫があった。・・・」

宮本常一著『私の日本地図 13 萩付近』より

宮本常一は、見島総合学術調査（1960～1962）、阿武川ダム民俗資料緊急調査（1968～1969）にたずさわり、旧萩市、見島、六島、旧川上村、旧福栄村に足跡を残しています。撮影された萩地域の写真は 2000 枚を超えます。



### 宮本常一のみた「見島」

「・・・この勤勉と計画性に報いるものがあったとしてもいいはずである。このような生活が時代遅れのものであるとは思わない・・・経済効果をあげることだけが人間の生き方ではないはずである。・・・」



「一日中、子供たちの声が島にみちていることで、親たちは生きる張り合いをおぼえていた。・・・親たちはみな、子供とともにあることで幸せであり、未来へ夢を話すことができるのである。・・・」

宮本常一著『私の日本地図 13 萩付近』より



今回の企画展では、宮本常一によって撮影された 1960 年代の萩地域の写真群をもとに、宮本が萩地域のどのような生活文化に注目したかを読み解きます。

写真所蔵：周防大島文化交流センター



- ◎ JR東萩駅よりタクシー10分
- ◎ 萩バスセンターより  
まあーるバス西回り5分  
「萩博物館前」下車
- ◎ 中国自動車道小郡IC、美祢ICより50分
- ◎ 山陽自動車道防府東ICより60分

Hagi Hakubutukan  
**萩博物館**

〒758-0057 山口県萩市大字堀内 355 番地  
TEL：0838-25-6447 FAX：0838-25-3142  
E-mail:muse@city.hagi.yamaguchi.jp